

令和4年度 第3回 双葉小学校運営協議会 会議録

1. 開催日時 令和4年12月8日(木) 15時00分から16時30分
2. 開催場所 双葉小学校 会議室
3. 出席委員 二橋 雅夫、黒柳 将人、加藤 泰弘、水野 久美子、大羽 恵子
菘 悦子、木村 理、伊東 敏郎、木村 健二
4. 欠席委員 伊藤 篤志
5. 学 校 藤井 隆志(校長)、井口 幸英(教頭)、浅井 功平(教務主任)
加美 美紀(CSディレクター)
6. 教育委員会 鈴木 陽子(教育総務課)
7. 傍聴人 なし
8. 協議事項
(1) キッズチャレンジビジネスについて
(2) やりたいことを見つけて動く子について
9. 会議録作成者 CSディレクター 加美 美紀
10. 会議記録

司会の教頭から、委員の総数10人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

加藤委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員異議なく承認した。

(1) キッズチャレンジビジネスについて

校長より、キッズチャレンジビジネスについての報告があった。6年生は、9月から「作品制作」に入り、11月に百貨店の方による接遇研修を受け、本番に向けての販売練習を行った。

販売練習では、運営協議会委員や地域の方々にお客の役としてお手伝いをしていたり、下級生に6年生が行う販売活動する様子を見学させたりした。遠鉄百貨店での販売では、凛々しく堂々とした6年生の姿がみられ、しっかりと活動をしていた。また、5年生に活動の様子を見学させたことにより、6年生への憧れの気持ちや来年度に向けた思いを持たせることもできたとの説明があった。

議長の指示により、引き続き(2)について、校長が説明し、その後、熟議することで全員了承した。

(2) やりたいことを見つけて動く子について

校長から子供に向けて、夏休みに入る前、やりたいことを見つけて「挑戦」してくださいと投げ掛けたとの報告があった。先日のふたばっ子発表会では、シナリオを自分たちで考える、得意分野を担当し進めていくなど、友達やクラスのみんなどとともに「挑戦」す

る姿が見られた。夢に近づく、夢を実現するための道筋として、「やりたいこと」を見つけ、挑戦する子供を育てていきたいとの説明があった。

校長からの説明を受け、各委員からは以下の発言があった。

- ・ キッズチャレンジビジネスは、子供自身が責任をもってやれることの集大成と考えている。販売当日もしっかり声が出ていたと聞き、よかったと思った。
やりたいことを見つけることは、簡単なことではないかもしれないが、子供と触れ合う中で、大人が子供のいいところを見つけ、得意なところをピックアップしてあげるのも一つの方法だと思っている。(木村委員)
- ・ キッズチャレンジビジネスの作品制作を見たが、子供の中でも進み具合に差があったと感じた。当日は一生懸命販売している様子が見られた。販売時は、背後で様子を見守る大人がいた方が良かったと感じた。(伊東委員)
- ・ ふたばっ子発表会はすばらしかった。発表会をモニターではなく、子どもと同じ空間で見ることができて良かった。キッズチャレンジビジネスについては、準備活動中、中だるみする様子も見られたが、この製品をお客様に販売するのだという意識をもって来年度も頑張ってもらいたい。販売当日は、大きな声であいさつし、臨機応変に対応していたと思う。ポップも良くできており、短期間でよくここまで仕上がったと思う。やりたいことを見つけるについては、双葉小のグランドデザイン「キャリア教育を通して育みたい力」の部分が浸透していないのではないか。(木村理委員)
→今年度は、学校評価アンケートでこの部分について、回答していただいている。
(学校)
- ・ キッズチャレンジビジネスについては、販売までのスケジュールが詰まっていたように思った。もう少し早い時期から活動を行えば、先生の負担が減ると思う。本番の日は、堂々とした様子が見られた。やりたいことを見つけることは、なかなか難しいが、子供の良いところを見つけ、それを褒めてあげることで、子供自身がそれに気付き、見つけていけるのではないか。(養委員)
- ・ ふたばっ子発表会では、最初から元気な姿を見ることができて大変立派だった。キッズチャレンジビジネスについては、来年度も続けていく方向ならば、できることから早めに準備を始めた方がよいのではないか。また、子供の意識を高めて活動に取り組ませた方が良く思う。準備段階での地域のサポートがありがたかった。やりたいことを見つけることについては、6年生は、まず中学校へ進学することが一つの夢なのではないだろうか。(大羽委員)
- ・ ふたばっ子発表会については、自分たち以外のクラスを応援する姿が良かった。キッズチャレンジビジネスについては、制作、接遇に関わることができた。スムーズに取り組めないときもあったが、子供には貴重な経験になっていると思う。ミシンを使った活動は経験差により出来具合の幅が大きいと思う。これからも地域住民として関

わっていけたらと思っている。(水野委員)

- ・ キッズチャレンジビジネスの手ぬぐいのデザインがとてもすばらしかった。やりたいことを見つけて動くについては、自分の同年代の頃を考えると、なかなか難しいように思う。(黒柳委員)
- ・ キッズチャレンジビジネスについては、当日上手に説明し、しっかり声を出していたと思う。販売方法について、品によっては売り切れている場合もあったので、タイムテーブルを設けてはどうか。説明の仕方も、商品を見せながら説明するなど、より積極的に行ってみてはどうだろうか。説明の仕方、商品を見せながら説明するなど、より積極的に行ってみてはどうだろうか。やりたいことを見つけるについては、小学生だとやりたいことがまだ分かっていないこともある。これからたくさんの経験が必要で、特に遊びが大切だと思っている。またこんな仕事もあるのだといった情報をどんどん与えてあげることが大切だと思う。(二橋委員)
- ・ キッズチャレンジビジネスについては、今年度の振り返りを行う時に、何について振り返るのかきちんと項目を決めるのが良いと思う。準備は、進んでやれる子とそうでない子の違いがすごく出ているなど感じた。キャリア教育の大本とは何かと考えたとき、子供がこれからどう生きていくかのサポートをしながら、学校にいるうちから社会を感じ取ろうということだと思う。(加藤委員)

(4) その他

教頭より、学校運営協議会自己評価用紙の提出についての説明があった。

次回開催予定

第4回 令和5年2月10日(金) 15時00分より 双葉小学校3階会議室